

2005年 11月 第30号

By FP Compass

1. おかげさまで「RM&FPニュース」は30号。

2003年5月に発刊してから早くも30号となりました。リスクマネジメントとファイナンシャルプランニングの重要性を早くから感じていました。

それらにかかわるさまざまな情報をタイムリーにご提供したいと決心をし、毎月休まずに30号を続けることができたのも、読者の皆様の励ましや、感謝の言葉に支えられてきたからと確信しております。

紙面や内容にはまだまだ稚拙なところもあるかと思いますが、改良を繰り返しつつ、今後も皆様に役に立つ情報を提供したいと思います。

今後もご愛読よろしくお願い申し上げます。

2. 福島県郡山市に世界有数のがん治療施設建設

総合南東北病院を運営する脳神経疾患研究所（郡山市）では、2008年をめどに最先端のがん治療装置である陽子線治療施設開設することになりました。

陽子線治療には患者の被爆（ひばく）を最小に抑えられる大きな特長があります。しかし建設費用は100億円程度とかなりの投資金額になります。

日本では神戸市などに公的な機関による陽子線治療施設は開設されていましたが、民間による同設備の導入は国内初だそうです。

現在、注目を集めている放射線治療で使っているのは主にエックス線やガンマ線です。

ともに放射線量が多いにもかかわらず、体内に入るほど放射線量が少なくなるため、患部への到達効率が低くなるだけではなく、皮膚や内臓などの正常組織への被爆という副作用はどうしても避けることができませんでした。

陽子線は患部位置の放射線量を最大にでき、副作用を極力最低限に抑え、より効果的にがん細胞を破壊するのが特長となります。

人体を通過するエックス線と違い、標的（がん細胞）の深さで止め、その先の放射線量をほぼゼロにもできるという優れた特長も兼ね備えていますので、人体に負担をかけることなく、患部のみを、まさにピンポイントで照射治療できる、夢のような治療施設です。

治療後の社会復帰や生活がすぐにできると言うメリットは何事にも替えられません。

前にも紹介したQOL（Quality Of Life）が治療方法を選択する大きな要素となる現在では、治療費より治療後の生活を重視する考えが増えてきています。

最先端の治療により病気が完治し、その後、普通の社会生活がすぐにも出来るのであれば、無理をしてもその治療を受けたいと思うのは、当然の事と思います。

陽子線治療はがんの大きさや転移の状況によりますが、1回5分の照射を繰り返し2~3

週間程度の通院治療だけという、精神的にも肉体的にも負担は大変軽い治療法ですが、健康保険対象外なので自由診療となり、治療費は約300万円程度と金銭負担は大変重いです。

同研究所ではMRI（磁気共鳴画像装置）のほか、がん診断の最先端診断装置のPET（陽電子放射断層撮影装置）を5台保有。早期がん発見や全身への移転状況の正確な把握に成果を上げています。

脳腫瘍（のうしゅよう）の治療ではガンマナイフも導入し、検診から治療まで世界最高水準の設備が整うことになります。

同病院では、10万円以上するPET検診に国内外から予約が集中しており、費用にかかわらず最先端検診・治療を希望する人は多くなっています。

このような世界最先端検診・治療施設が隣の福島県に展開される事は、検診や治療の選択肢をふやすことができるため、歓迎される事だと思います。

しかし、自由診療の治療はメリットが多いものの、費用の点で「二の足を踏む」ことも多いと思われます。また、このような最先端治療というメニューを知らないなどの知識不足により、治療を受けることができない方々も大勢います。

それらの問題を一挙に解決する手段の筆頭として、セコム損保のがん保険「メディコム」が挙げられます。

自由診療、公的診療にかかわらず治療費を全額支払うがん保険は「メディコム」だけとなります。また、セカンドオピニオンサービスにより患者に適した治療方法を選択する手助けをします。費用を気にせず自分の納得した治療方法を選択できる事は最高の幸せです。

3. 旅行が好きな方に耳よりな話…

家族や夫婦で海外や豪華温泉旅行を計画するときに高額な旅行代が問題。一時的に高額出費をすれば、家計にも大きく響くことになります。

やはり、夢の実現には計画的な貯蓄が必要となります。でも計画的な貯蓄をするなら有利にしたいものです。

そこで、各旅行会社から提供されている、旅行積立商品が有利となります。

積立方法は毎月定期的に積立する方式と、一括払い方式などがあります。

期間が1年の一括払いが2%の場合、100万円を積み立てた場合、1年後に102万円分の旅行券が受け取れます。この場合、利息部分の2万円には利息がかかりませんので、他の金融商品と比較しても、その分お得といえます。

各旅行会社や積立期間、積立方法により年平均利回りが違ってきます。

旅行積立商品は積立金に銀行預金などよりも高い利回りのサービス額が上乗せされる反面、会社によっては引き換えに制限があります。

店頭で扱っているパッケージ旅行と引き換えるだけなら問題はありませんが、航空券や鉄道の乗車券は会社によって引き替えが出来ないなど、扱いが異なっています。

ここで、旅行積立における注意点をまとめますと

- ①どのような内容の商品と引き替えができるか確認する。
 - ②途中解約をしなくとも良い程度の金額で積み立てる。途中解約は不利となる場合も。
 - ③預金保険機構の対象外なので、旅行会社の財務内容をよく確認する。
- 主な旅行会社の旅行積立商品の一覧表を記載しますので、ご参照ください。

主な旅行会社の旅行積立商品と年平均利回り（年利換算、%）

会 社	商品名	最低額	方法	積立期間（月）					
				6~11	12~23	24~35	36~47	48~59	60
JTB	たびたび バンク	3千円 以上	毎月 一括	—	1.75	1.75	1.75	1.75	1.75
				7.1-	1.50				
近畿日本 ツーリスト	旅したく	3千円 以上	毎月 一括	1.50	1.75	1.75	1.75	1.75	1.75
				1.75	2.00	2.00	2.00	2.00	2.00
日本旅行	ドリーム プラン	3千円 以上	毎月 一括	1.50	1.75	2.00	2.25	2.50	2.75
				1.75	2.00	2.25	2.50	2.75	3.00
JR 東日本	びゅう プラン	3千円 以上	毎月 一括	1.80	2.30	2.80	3.30	3.30	4.30
				2.30	2.80	3.30	3.80	3.80	4.80

詳細は、各旅行会社にお問い合わせ下さい。

4. 投資入門講座

前回は「リスク」と「リターン」の説明をしました。

今回は「株式の基本」を説明したいと思います。

株式会社の最も古い会社は東インド会社と言われています。当時ヨーロッパではアジア地域との交易により莫大な利益が得られました。しかし、当時の船舶航海技術は確実性が低く、頻繁に難破をしました。当時の貿易はリターンが大きくリスクも大変大きいものでした。

そこで、そのリスクを分散化するために、投資家を募集し、出資金に応じた配当金を支払った事が株式会社の始まりと言われています。

株式とは、株式会社が資金を調達するために発行する有価証券です。

会社がビジネスをスタートしたり、拡大を目指していくには、資金が必要となります。

株式による資金調達方法を直接金融と言われ、集めた資金は基本的に返済する必要性がなく、長期に安定した資金繰りとして利用できます。(株式の売買は基本的に株主同士で行う)

その分、株主にはさまざまな権利が付与されています。

・経営参加権

会社の経営に参加する権利で、株主総会に参加して株数に応じた議決権が行使できます。

・利益配当請求権

会社からの利益の配当を受ける権利。

・残余財産分配請求権

会社が解散したとき、残った財産を分けてもらう権利。

会社の株式を保有していることはその会社の経営の一部に参加していることになります。

ただし、株主の責任については、出資額までの有限責任となります。

株式投資によって、会社があげた利益から配当金を得られたり、会社によっては株主優待券や商品・サービスの提供などが受けられることがあります。

しかし、なんといっても株式投資の最大の魅力はキャピタルゲイン（値上がり益）の収得

ではないでしょうか。

短期期間においては値段が大きく変動することもありますが、長期的に大きく成長する会社では、一般的に株価も長期的に大きく値を上げています。

かつてのトヨタも松下もソニーも当初は、誰しも投資したいと思う会社ではありませんでした。しかし、創業当時からの株式を保有していれば、今となっては、すごい金額になっており、ちょっとした資産家になっている事でしょう。

資本主義の経済では常に競争力のある会社が残り、それらの会社だけが株式市場に集まる仕組みがあるため、株式市場の成長は期待できるのです。

株式市場にはさまざまな株価指数があります。テレビでおなじみの指数は2つ…

・日経平均株価（日経225）

東京証券取引所に第1部に上場されている主要225銘柄を対象とした修正平均株価。

・TOPIX

東京証券取引所第1部に上場している全銘柄を対象とした加重平均株価を1968年1月4日時点の時価総額を100ポイントとして指数化したものです。

株式市場の規模を知ることができます

株式は、値動きの大きさから、どちらかと言えばリスク金融商品の代表的な存在として認識されてきました。しかし、その特性を生かし、正しくつき合うことにより、インフレにも負けずに大きなメリットが期待できます。

長期的な視点で臨み、リスクを分散していくべき個人投資家でも株式の魅力的な成長性を資産運用に取り入れることは大変有効となります。

5. 45才までのマネー＆保険講座再開

今年6月まで開催していました講座を下記の要項にて再開しました。

皆様のご参加を歓迎いたします。前回受講された方も歓迎です。受講料は無料です。

日 時 平成17年11月26日（土） 午後2時～4時

（午後1時40分受付開始）

場 所 山形ピックウイング4階会議室（402号室を予定しています）

対象年齢 18才～45才位まで、男女の別は問いません。

お申し込みは下記の連絡先で深瀬まで。受講票を送らせていただきます。

20名限定となります、お早めに。

発行者 有限会社 FPコンパス

武田幸夫 スタッフ：木村正照、阿部信、高橋治子、深瀬幸子、多田恵子

〒994-0054 山形県天童市荒谷2589

TEL 023-654-8831 FAX 023-654-8832

E-mail tide@mm.neweb.ne.jp